

茂田管理者のあいさつ

県立病院ネットワーク体制、医療イノベーションの時代に向けて



病院局が公営企業法全適となって3年を経過しました。その間、県立病院改革審議会の答申、県議会の承認等を経て県立病院運営の改革計画が着々と実行されてきました。まず、リハビリテーション飯坂温泉病院ほか3病院1診療所の廃止と移譲、会津総合病院と喜多方病院の統合による新病院建設の計画および実行着手が進められました。リハビリテーション飯坂温泉病院は昭和40年代から、その他2病院1診療所は昭和20年代から県立病院としてそれぞれの地域の人々に愛され信頼された病院として存続してきたわけではありますが、今年度限りで廃止されるということはまことに名残惜しいことでもあります。しかしその病院機能は別の形で地域に残され、活かされていきますので、地域の方々には安心していただけると信じております。今後私たちは大野病院ほか存続する病院の医療機能の充実及び病院の運営・経営改善の「アクションプログラム」の忠実な実施が求められています。このような県立病院の改革（イノベーション）プログラムは、すべて県民に対する安全・良質な医療を提供するためであることは云うまでもありません。まず、第一段階の改革によって多くの人々が職場の配置転換を余儀なくされて、新しい職場での仕事に苦労されることが予想されますが、迎える人達もその事情を理解して一日も早く良いチームを作れるように努力して下さい。またこの「アクションプログラム」の実行は職場にいる自分たちのために行うのではなく、県立病院で医療を受ける患者さん達、ひいてはその背後にいるすべての県民のためであるという意識の転換を図って下さい。そうすれば必ず県民から愛され親しまれる県立病院グループが出来るものと確信しております。

予定されている会津統合病院（まだ仮称ではありますが）は、平成23年度に開院を目指して調査・設計を進めております。この病院はまさに新しい県立病院グループのネットワークの中核となるもので、へき地医療の支援、高齢者に多い疾患、特にがん医療の推進など、5つのセンター医療を備えた、今までに類を見ない特殊な病院であります。今後は県立医大と密接な協力体制を備えつつ医師を確保し、会津地方のみならず福島県全般に良質高度な医療を供給できる病院として育てていきたいと考えています。また矢吹、宮下、南会津、大野各病院の将来への展望なども、これから職員の皆様と共に考えて行きたいと思っておりますので県病職員の皆様の協力・尽力をひとえにお願い致します。



病院機能評価

宮下病院が病院機能評価(Ver.5.0)の認定を受けました

宮下病院は、平成14年2月18日に病院機能評価(Ver.3.1)の認定を受けていましたが、このたび、5年間の認定期限を迎えたことから病院機能評価の最新バージョンである「5.0」の審査を受審し、その結果、平成19年2月19日付けで認定され、3月9日に認定書が交付されました。



宮下病院では、病院機能評価受審に向け、「病院機能評価対応委員会」を立ち上げ、また、全職員が協同して、安全な医療提供のための仕組み構築、全館禁煙の実施、職員全体研修の実施などに取り組み、医療の質の向上・患者サービスの改善が図られました。

この認定を励みに、一層患者様や地域の皆様に信頼される病院を目指して、より安全で質の高い医療を提供できるよう、全病院一丸となって取り組んでいきましょう。

秋山局長のあいさつ

19年度からのスタートに向けて



平成19年3月31日をもってリハビリテーション飯坂温泉病院、同病院本宮診療所、三春病院、そして猪苗代病院が県立病院としての役割を終えることになりました。

飯坂温泉病院は昭和44年開院以来38年間。本宮診療所は昭和24年日本医療団から移管され県立病院として設置されて以来58年間。三春病院は昭和26年開院以来56年間。猪苗代病院は昭和24年日本医療団から移管され県立病院として設置されて以来58年間。それぞれ長きにわたり、県民の皆さん、地域の皆さんに頼られる医療機関として専門医療、地域医療等に大きな役割を果たしてきました。このことは、事実であり、評価されるべきものと思います。

これまでの立地自治体や地域の皆さんのご支援、ご協力、そして、各病院等で医療にたずさわっていただいた、医師をはじめ職員の方々の医療人としての誇りと使命感、ご努力に、敬意と感謝を申し上げる次第です。

県立病院は、4月から6つの病院で再スタートすることになります。今後とも時代の変化に対応しながら県立病院としての使命を果たしていく必要があります。

このたび策定した「福島県病院事業経営改善計画」の着実な実行、いよいよ具体化してきた会津統合病院整備に向けた取り組み。その道は決して平坦ではないと思います。しかし、一つひとつしっかりと取り組んでいかなければなりません。

要は、時代の変化に対応していかにより自らが変わるか、そして患者さん、地域の皆さん、県民の皆さんからいかに信頼と支持をいただけるか、ではないでしょうか。

病院は各ポジション、マンパワーの集合体。総合力が試されていると思います。

退職される方々本当にありがとうございました。異動する方々の新任地での活躍を祈ります。

経営改善計画

「福島県病院事業経営改善計画」を策定しました

福島県立病院事業は、深刻化する医師不足、それに伴う患者の減少、さらには国の医療費抑制政策などにより、赤字幅が拡大している状況にあります。このような現状を踏まえ、平成19年3月26日に、医師確保に全力を挙げるとともに、具体的な経営改善に向けての数値目標の設定を始め、そのための改善策を盛り込んだ「福島県病院事業経営改善計画」を策定し、また、同日の福島県行財政改革推進本部県立病院改革推進部会に報告し了承されました。

計画の概要及び全文は病院局のホームページに掲載しております。また、次号で計画の詳しい内容について紹介する予定です。

会津統合病院（仮称）

基本設計の設計者が決定しました

会津若松市河東町十文字地区に建設予定の会津統合病院（仮称）の基本設計について、技術力の高い設計者を選定するために、公募型プロポーザルを実施しました。

昨年12月から今年2月にかけて全国から提案を募り、応募があった18者の技術提案について、今月、佐藤会津総合病院長、油井喜多方病院長のほか建築専門の有識者など10名からなる審査委員会で審査した結果、「佐藤総合計画・古市徹雄都市建築研究所設計共同体」が最優秀案（設計候補者）に決定されました。

今後は、会津総合・喜多方両病院のスタッフと設計者の間で協議を重ねながら、具体的な設計図を描いていくこととなります。



最優秀案の統合病院イメージ図
完成予想図ではありません

～ご意見・ご感想をお寄せください～

親切 信頼 進歩